

授業科目 (科目ID)	国語・文章理解		担当教員  (実務経験)	湊 久恵  有 無 ✓		
対象年次・学期	1年・前期		必修・選択区分	必修	単位数	4単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	30	時間数	60時間
授業目的	国語および文章理解について公務員試験に備えて基礎を作る。					
到達目標	国語は社会人として身につけるべきものを習得する。文章理解は、重要度において読み方にめりはりをつける方法を身につける。					
テキスト・参考図書等	"絶対"合格シリーズ 文章理解 テキスト編 "絶対"合格シリーズ 文章理解 ドリル編 公務員試験 地方初級・国家一般職テキスト 国語・文章理解 公務員試験 地方初級・国家一般職問題集 国語・文章理解 漢字学習トレーニング					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	60%	評価試験、小テスト、その他(授業態度等)を合わせて、総合的に評価する。			
	レポート	%				
	小テスト	20%				
	提出物	%				
	その他	20%				
履修上の 留意事項	学生の実力や授業形式(オンライン等)で変更の可能性がある。					
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	授業ガイダンス1	公務員試験用の自己紹介をする。公務員試験における文章理解の意味を知る。			
	2	授業ガイダンス2	テキストやノートの使い方を知る。新聞はどのように読むべきか。			
	3	文章理解 内容把握1	文章理解(内容把握)接続のこばに注目する。漢字エクササイズ、四字熟語。			
	4	文章理解 内容把握2	文章理解(内容把握)強調表現に注目する。漢字エクササイズ、四字熟語。			
	5	文章理解 内容把握3	文章理解(内容把握)条件を表す表現を見つける。漢字エクササイズ、四字熟語。			
	6	文章理解 内容把握4	文章理解(内容把握)副詞の働きを知る。漢字エクササイズ、四字熟語。			
	7	文章理解 内容把握5	文章理解(内容把握)指示語の働きを知る。漢字エクササイズ、四字熟語。			
	8	文章理解 内容把握6	文章理解(内容把握)例示の表現への対処方法を知る。漢字エクササイズ、四字熟語。			
	9	文章理解 内容把握7	文章理解(内容把握)定義づけに線を引く。漢字エクササイズ、四字熟語。			
	10	文章理解 内容把握8	文章理解(内容把握)問題提起型の論の進め方を知る。漢字エクササイズ小テスト、四字熟語。			
	11	文章理解 内容把握9	文章理解(内容把握)まとめの表現を見つける。漢字エクササイズ、四字熟語。			
	12	文章理解 内容把握10	文章理解(内容把握)「のだ」「のである」の役割を知る。漢字エクササイズ、四字熟語。			
	13	文章理解 内容把握11	文章理解(内容把握)「いわば」を見つけたらラッキーである。漢字エクササイズ、四字熟語。			
	14	文章理解 空間補充1	文章理解(空欄補充)「このように」「こうして」は重要である。漢字エクササイズ、四字熟語。			
15	文章理解 空間補充2	文章理解(空欄補充)同義語に注目する。漢字エクササイズ、四字熟語。				

履修主題・履修内容	16	文章理解 空間補充3	文章理解(空欄補充)空欄を後から指す指示語の扱いを知る。漢字エクササイズ。四字熟語。
	17	文章理解 空間補充4	文章理解(空欄補充)筆者名、題名もヒントになる。漢字エクササイズ。四字熟語。
	18	文章理解 整序1	文章理解(整序)整序はパズルである。漢字エクササイズ小テスト。四字熟語。
	19	文章理解 整序2	文章理解(整序)しりとり原則とは何か。四字熟語。
	20	文章理解 整序3	文章理解(整序)内容は後まわしにして考える。四字熟語。
	21	文章理解 整序4	文章理解(整序)グループ分け方法を知る。漢字エクササイズ。四字熟語。
	22	文章理解 整序5	文章理解(整序)指示語を手掛かりにする。四字熟語。
	23	総合演習1	問題演習。四字熟語。
	24	総合演習2	問題演習。四字熟語。
	25	総合演習3	問題演習。四字熟語。
	26	総合演習4	問題演習。四字熟語。
	27	総合演習5	問題演習。四字熟語。
	28	漢検演習1	漢検に挑戦(3級)
	29	漢検演習2	漢検に挑戦(準2級)
30	漢検演習3	漢検に挑戦(2級)結果を踏まえて希望級を決定する。	

2023年度

吉田学園公務員法科専門学校

公務員学科 警察消防専攻

授業科目 (科目ID)	国語・文章理解		担当教員  (実務経験)	湊 久恵  有 無 ✓		
対象年次・学期	1年・後期		必修・選択区分	必修	単位数	4単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	30	時間数	60時間
授業目的	国語および文章理解について、公務員試験に備え応用段階に入る。					
到達目標	国語は社会人として身につけるべき知識を実際に使えるようにする。文章理解は、 で知った読み方を試験で使えるようにする。					
テキスト・ 参考図書等	"絶対"合格シリーズ 文章理解 テキスト編 "絶対"合格シリーズ 文章理解 ドリル編 公務員試験 地方初級・国家一般職テキスト 国語・文章理解 公務員試験 地方初級・国家一般職問題集 国語・文章理解 漢字学習トレーニング					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	60%	評価試験、小テスト、その他(授業態度等)を合わせて、総合的に評価する。			
	レポート	%				
	小テスト	20%				
	提出物	%				
	その他	20%				
履修上の 留意事項	学生の実力や授業形式(オンライン等)で変更の可能性がある。					
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	口語文法1	四字熟語、口語文法その1、漢検対策。			
	2	口語文法2	四字熟語、口語文法その2、漢検対策。			
	3	口語文法3	四字熟語、口語文法その3、漢検対策。			
	4	口語文法4	四字熟語、口語文法その4、漢検対策。			
	5	口語文法5	四字熟語、口語文法その5、漢検対策。			
	6	口語文法6	四字熟語、口語文法その6、漢検対策。			
	7	口語文法7	四字熟語、口語文法その7、漢検対策。			
	8	口語文法8	四字熟語、口語文法その8、漢検対策。			
	9	口語文法9	四字熟語、口語文法その9、漢検対策。			
	10	口語文法10	四字熟語、口語文法その10、漢検対策。			
	11	文学史1	文学史、主な作品の冒頭文を知る。口語文法その11、漢検対策。			
	12	現代文の問題演習1	現代文の問題演習、文中に根拠を求める。口語文法その12、漢検対策。			
	13	現代文の問題演習2	現代文の問題演習、短時間で解く方法を知る。口語文法その13、漢検対策。			
	14	現代文の問題演習3	現代文の問題演習。口語文法その14、漢検対策。			
15	現代文の問題演習4	現代文の問題演習、印のつけ方を確認する。口語文法その15、漢検対策。				

履修主題・履修内容	16	現代文の問題演習5	現代文の問題演習、文章の難解さと問題の難易度は異なる過去のL.C.を見直しながら解く。口語文法その16。漢検対策。
	17	現代文の問題演習6	現代文の問題演習、文章の難解さと問題の難易度は異なる。漢検対策。
	18	文学史2	古典文学
	19	文学史3	現代文学
	20	文学史4	日本文学史問題演習
	21	文学史5	世界文学
	22	芸術史	芸術史
	23	現代文の問題演習7	現代文問題演習、漢検対策。
	24	現代文の問題演習8	現代文問題演習、漢検対策。
	25	分野別クリブ1	問題演習
	26	分野別クリブ2	問題演習
	27	分野別クリブ3	問題演習
	28	分野別クリブ4	問題演習
	29	分野別クリブ5	問題演習
30	漢検直前対策	問題演習	

2023年度

吉田学園公務員法科専門学校

公務員学科 警察消防専攻

授業科目 (科目ID)	作文指導		担当教員  (実務経験)	湊 久恵  有 無 ✓		
対象年次・学期	1年・前期		必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	最近の公務員試験は人物評価を重視する傾向が強まっている。ものの味方・考え方、表現力、判断力、観察力といった、総合的な能力が問われる。そのため、面接試験や作文試験が重要なポイントになってきている。ここでは、合格作文が書けるための基本ルールの習得を目的とする。					
到達目標	公務員試験の作文や面接カードを記入するための基礎力を養成する。					
テキスト・参考図書等	オリジナルプリント教材 漢字学習トレーニング					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	%	提出物、その他(授業態度等)を合わせて、総合的に評価する。			
	レポート	%				
	小テスト	%				
	提出物	50%				
	その他	50%				
履修上の 留意事項	学生の実力や授業形式(オンライン等)で変更の可能性がある。					
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	作文基礎1	実作			
	2	作文基礎2	実作			
	3	作文基礎3	実作			
	4	作文基礎4	実作			
	5	作文基礎5	実作			
	6	作文基礎6	実作			
	7	作文基礎7	実作			
	8	作文基礎8	実作			
	9	作文基礎9	実作			
	10	作文基礎10	実作			
	11	待遇表現1	円滑なコミュニケーションを推進するため、上下関係及び場の状況や雰囲気認識する言葉・文章とは何か			
	12	待遇表現2	円滑なコミュニケーションを推進するため、上下関係及び場の状況や雰囲気認識する言葉・文章とは何か			
	13	エントリーシート	民間との違いを知る			
	14	面接カード1	過去の事例を基に実際書いてみる			
15	面接カード2	過去の事例を基に実際書いてみる				

2023年度

吉田学園公務員法科専門学校

公務員学科 警察消防専攻

授業科目 (科目ID)	英語	担当教員  (実務経験)	山口 祐介  有 無 ✓		
対象年次・学期	1年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	公務員試験に対応できる実践的な長文読解力、構文把握力、及び語彙力を習得し、根拠を持って正答を導き出せるようになる。				
到達目標	1. 公務員試験問題の選択肢と本文の整合性を確認し、正答の根拠となる英文の意味を理解できるようになる。 2. 公務員試験問題に頻出の語法や構文、そして英文独自の段落構成を理解し、知識と論理で正答にたどり着けるようになる。				
テキスト・ 参考図書等	*絶対合格シリーズ 文章理解 テキスト編 公務員試験 地方初級・国家一般職テキスト 国語・文章理解				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	60%	評価試験、小テスト、その他(授業態度等)を合わせて、総合的に評価します。		
	レポート	%			
	小テスト	20%			
	提出物	%			
	その他	20%			
履修上の 留意事項	前回の授業の語彙習得を確認するテストを行う。*基礎と応用では、演習プリント及び確認テストの内容に差がある。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	英語学習のポイント、品詞について	板書を使った説明と問題演習		
	2	5文法について	板書を使った説明と問題演習		
	3	文構造について	板書を使った説明と問題演習		
	4	時制	板書を使った説明と問題演習		
	5	時制	板書を使った説明と問題演習		
	6	助動詞	板書を使った説明と問題演習		
	7	助動詞	板書を使った説明と問題演習		
	8	受動態	板書を使った説明と問題演習		
	9	不定詞	板書を使った説明と問題演習		
	10	完了形	板書を使った説明と問題演習		
	11	比較	板書を使った説明と問題演習		
	12	関係詞	板書を使った説明と問題演習		
	13	動名詞	板書を使った説明と問題演習		
	14	動名詞	板書を使った説明と問題演習		
15	前期文法事項の総まとめ	板書を使った説明と問題演習			

授業科目 (科目ID)	英語	担当教員  (実務経験)	山口 祐介  有 無 ✓		
対象年次・学期	1年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	公務員試験に対応できる実践的な長文読解力、構文把握力、及び語彙力を習得し、根拠を持って正答を導き出せるようになる。				
到達目標	1. 公務員試験問題の選択肢と本文の整合性を確認し、正答の根拠となる英文の意味を理解できるようになる。 2. 公務員試験問題に頻出の語法や構文、そして英文独自の段落構成を理解し、知識と論理で正答にたどり着けるようになる。				
テキスト・参考図書等	*絶対合格シリーズ 文章理解 テキスト編 公務員試験 地方初級・国家一般職テキスト 国語・文章理解				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	60%	評価試験、小テスト、その他(授業態度等)を合わせて、総合的に評価します。		
	レポート	%			
	小テスト	20%			
	提出物	%			
	その他	20%			
履修上の 留意事項					
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	使役動詞	板書を使った説明と問題演習		
	2	仮定法	板書を使った説明と問題演習		
	3	仮定法	板書を使った説明と問題演習		
	4	文章理解の問題攻略法	板書を使った説明と問題演習		
	5	問題演習(内容一致)	板書を使った説明と問題演習		
	6	問題演習(内容一致)	板書を使った説明と問題演習		
	7	問題演習(内容一致)	板書を使った説明と問題演習		
	8	問題演習(内容一致)	板書を使った説明と問題演習		
	9	問題演習(空所補充)	板書を使った説明と問題演習		
	10	問題演習(空所補充)	板書を使った説明と問題演習		
	11	問題演習(空所補充)	板書を使った説明と問題演習		
	12	問題演習(空所補充)	板書を使った説明と問題演習		
	13	熟語の総整理	板書を使った説明と問題演習		
	14	ことわざの総整理	板書を使った説明と問題演習		
15	後期の総まとめ	板書を使った説明と問題演習			

授業科目 (科目ID)	数学 (基礎)		担当教員  (実務経験)	高崎 浩彰  有 無 ✓		
対象年次・学期	1年・前期		必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	地方初級・中級、高卒警察官などで出題される数学の問題にとどまらず、数的知能にも利用できる計算力・思考力を習得し、得点出来る学力を養う。					
到達目標	数学範囲で出題される1～2問のうち半数を得点できることを目標とする。					
テキスト・ 参考図書等	"絶対"合格シリーズ 自然科学 テキスト編 "絶対"合格シリーズ 自然科学 問題集編 "絶対"合格シリーズ 自然科学 ドリル編					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	60%	評価試験、小テスト、その他(授業態度等)を合わせて、総合的に評価します。			
	レポート	%				
	小テスト	20%				
	提出物	%				
	その他	20%				
履修上の 留意事項	1、講義を受けるにあたって必要なもの(テキスト、問題集、配布資料など)は毎回持参すること。2、講義中の私語、居眠り、スマートフォン(電源を切る、または、マナーモードにする)の操作などを行わないこと。					
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	基礎学力試験	試験結果を踏まえてコース分けを行う。			
	2	展開	式の展開			
	3	因数分解	因数分解の解法			
	4	平方根	平方根の計算、有理化			
	5	平方根	平方根の計算			
	6	1次関数(1)	1次関数の式の解法			
	7	1次関数(1)	2点を通る1次関数の式			
	8	1次関数(2)	交点の座標			
	9	1次関数(2)	中点の座標、対称座標			
	10	1次関数(3)	不等式の表す領域			
	11	1次関数(3)	連立不等式の表す領域			
	12	2次方程式・2次不等式(1)	因数分解による2次方程式の解き方、解の公式			
	13	2次方程式・2次不等式(1)	2次不等式			
	14	総まとめ	まとめと問題演習			
15	総まとめ	まとめと問題演習				



授業科目 (科目ID)	数学 (応用)		担当教員	森 淳紀		
			(実務経験)	有	無	✓
対象年次・学期	1年・前期		必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	国家公務員、地方公務員、警察官、消防官等の公務員採用試験に対応できる知識と計算能力の向上を目的とする。					
到達目標	公務員試験で試される分野の中で、将来、公務員として必要とされる数学の基礎学力を養成する。基礎的な計算能力を修得し、図形に関する知識を運用し、方程式、関数などの周辺分野に取り組むことができる。					
テキスト・参考図書等	"絶対"合格シリーズ 自然科学 テキスト編 "絶対"合格シリーズ 自然科学 問題集編 "絶対"合格シリーズ 自然科学 ドリル編 試験対策演習プリント					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	60%	評価試験、小テスト、その他(授業態度等)を合わせて、総合的に評価します。			
	レポート	%				
	小テスト	20%				
	提出物	%				
	その他	20%				
履修上の留意事項	修得しなければならない重要な分野は限られている。積極的に取り組む姿勢が苦手意識を克服する第一歩である。速く正確に正解を得ることができるように真刻に取り組もう。					
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	ガイダンス、基礎学力確認	基礎学力試験			
	2	式の計算(展開、因数分解、平方根など)	学力試験のテスト結果を踏まえて、計算の工夫の仕方を修得する。			
	3	1次関数	直線のグラフの性質を修得する。			
	4	1次関数	二直線の平行・垂直などの条件について修得する。			
	5	2次方程式・2次不等式	2次方程式のすべての解法を修得する。			
	6	2次方程式・2次不等式	2不等式から求める範囲を導出できるようにする。			
	7	2次関数	2次関数の頂点の求め方や平行移動の方法を習得する。			
	8	2次関数	2次関数の最大最小の求め方について理解する。			
	9	2次関数	前授業を踏まえて、2次関数の応用題の解法を理解する。			
	10	関数とグラフ(円)	主に円の方程式の求め方、中心の座標の求め方を修得する。			
	11	関数とグラフ(領域)	円や直線の領域の描き方について修得する。			
	12	三角比	三角比の定義、三角比の角度と値について修得する。			
	13	三角比	三角比の式変形や図形への応用(正弦定理・余弦定理)を理解する。			
	14	試験対策演習	問題演習実施(計算の工夫～二次方程式・不等式の解法)			
15	試験対策演習	問題演習実施(二次関数～円や直線の表す領域・三角比)				

授業科目 (科目ID)	数学 (基礎)		担当教員  (実務経験)	高崎 浩彰  有 無 <input checked="" type="checkbox"/>		
対象年次・学期	1年・後期		必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	地方初級・中級、高卒警察官などで出題される数学の問題にとどまらず、数的知能にも利用できる計算力・思考力を習得し、得点出来る学力を養う。					
到達目標	数学範囲で出題される1～2問のうち半数を得点できることを目標とする。					
テキスト・ 参考図書等	"絶対"合格シリーズ 自然科学 テキスト編 "絶対"合格シリーズ 自然科学 問題集編 "絶対"合格シリーズ 自然科学 ドリル編					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	60%	評価試験、小テスト、その他(授業態度等)を合わせて、総合的に評価します。			
	レポート	%				
	小テスト	20%				
	提出物	%				
	その他	20%				
履修上の 留意事項	1、講義を受けるにあたって必要なもの(テキスト、問題集、配布資料など)は毎回持参すること。2、講義中の私語、居眠り、スマートフォン(電源を切る、または、マナーモードにする)の操作などを行わないこと。					
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	2次方程式・2次不等式(2)	解と係数の関係			
	2	2次方程式・2次不等式(2)	解の個数			
	3	2次関数(1)	頂点の座標			
	4	2次関数(1)	頂点の座標			
	5	2次関数(2)	グラフの対称移動			
	6	2次関数(2)	グラフの平行移動			
	7	2次関数(3)	共有点の個数			
	8	2次関数(3)	共有点の個数をもつための範囲			
	9	2次関数(4)	最大値、最小値			
	10	2次関数(4)	最大値、最小値			
	11	2次関数(4)	最大値、最小値			
	12	三角比(1)	三角比の計算			
	13	三角比(1)	三角比の計算			
	14	総まとめ	まとめと問題演習			
15	総まとめ	まとめと問題演習				

2023年度

吉田学園公務員法科専門学校

公務員学科 警察消防専攻

授業科目 (科目ID)	数学 (応用)		担当教員	森 淳紀		
			(実務経験)	有	無	✓
対象年次・学期	1年・後期		必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	国家公務員、地方公務員、警察官、消防官等の公務員採用試験に対応できる知識と計算能力の向上を目的とする。					
到達目標	公務員試験で試される分野の中で、将来、公務員として必要とされる数学の基礎学力を養成する。基礎的な計算能力を修得し、図形に関する知識を運用し、方程式、関数などの周辺分野に取り組むことができる。					
テキスト・参考図書等	"絶対"合格シリーズ 自然科学 テキスト編 "絶対"合格シリーズ 自然科学 問題集編 "絶対"合格シリーズ 自然科学 ドリル編 試験対策演習プリント					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	60%	評価試験、小テスト、その他(授業態度等)を合わせて、総合的に評価します。			
	レポート	%				
	小テスト	20%				
	提出物	%				
	その他	20%				
履修上の 留意事項	修得しなければならない重要な分野は限られている。積極的に取り組む姿勢が苦手意識を克服する第一歩である。速く正確に正解を得ることができるように真刻に取り組もう。					
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	ガイダンス、基礎学力確認	学力試験を踏まえて基礎学力の確認をする。			
	2	式の計算(展開、因数分解、無理数)	展開・因数分解など計算の工夫の仕方を修得する。			
	3	式の計算(展開、因数分解、無理数)	整数部分・小数部分の求め方、平方根の計算を修得する。			
	4	2次方程式	2次方程式の解法を修得する。			
	5	2次方程式	文章題から2次方程式を立式でき、解く方法を修得する。			
	6	2次関数	二次関数の頂点の求め方、平行移動の方法を修得する。			
	7	2次関数	二次関数の最大最小の求め方を修得する。			
	8	2次関数	二次関数と二次方程式の解との関係を理解する。			
	9	2次関数	二次関数の最大最小など今までのまとめを行う。			
	10	2次不等式の解き方	二次関数のグラフから不等式の解き方を修得する。			
	11	2次不等式の活用	二次方程式の満たすべき条件から不等式の活用方法を修得する。			
	12	円の方程式	円の方程式の求め方、中心や半径の求め方を修得する。			
	13	不等式の表す領域	円や直線の不等式が表す領域の求め方を修得する。			
	14	三角比とその活用	三角比の定義、計算方法、余弦定理・正弦定理の活用の仕方を修得する。			
15	総合演習	今までの学習単元のまとめ演習を行う。				

2023年度

吉田学園公務員法科専門学校

公務員学科 警察消防専攻

授業科目 (科目ID)	政治・経済	担当教員  (実務経験)	小林 功典、高崎 浩彰  有 無 ✓		
対象年次・学期	1年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	4単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	30	時間数	60時間
授業目的	政治・経済は単純な暗記よりも、理解を伴った記憶の方が、知識が定着します。政治・経済の授業では、単に語句を暗記するのではなく、「仕組み」や「問題点」を理解することを目的とします。				
到達目標	政治・経済は、社会科学系では、最も確実な得点源となります。授業目的に基づき、応用力を身につけ、得意科目とすることを目標とします。				
テキスト・参考図書等	"絶対"合格シリーズ 社会科学 テキスト編 "絶対"合格シリーズ 社会科学 問題集編 "絶対"合格シリーズ 社会科学 ドリル編 担当教員作成によるレジュメ及び過去問題集				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	60%	評価試験、小テスト、その他(授業態度等)を合わせて、総合的に評価します。		
	レポート	%			
	小テスト	20%			
	提出物	%			
	その他	20%			
履修上の 留意事項	自学自習時は、復習を中心とした勉強を実施して下さい。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	統治機構 三権分立	講義と問題演習		
	2	統治機構 三権分立	講義と問題演習		
	3	統治機構 国会	講義と問題演習		
	4	統治機構 国会	講義と問題演習		
	5	統治機構 内閣	講義と問題演習		
	6	統治機構 内閣	講義と問題演習		
	7	統治機構 裁判所	講義と問題演習		
	8	統治機構 裁判所	講義と問題演習		
	9	日本国憲法の基本的性格	講義と問題演習		
	10	日本国憲法の基本的性格	講義と問題演習		
	11	地方自治	講義と問題演習		
	12	地方自治	講義と問題演習		
	13	選挙制度	講義と問題演習		
	14	選挙制度	講義と問題演習		
15	民主主義の発展	講義と問題演習			

履修主題・履修内容	16	民主主義の発展	講義と問題演習
	17	各国の政治制度	講義と問題演習
	18	各国の政治制度	講義と問題演習
	19	基本的人権の尊重(1)自由権	講義と問題演習
	20	基本的人権の尊重(1)自由権	講義と問題演習
	21	基本的人権の尊重(2)社会権・参政権・請求権	講義と問題演習
	22	基本的人権の尊重(2)社会権・参政権・請求権	講義と問題演習
	23	基本的人権の尊重(3)その他、前提となる人権など	講義と問題演習
	24	基本的人権の尊重(3)その他、前提となる人権など	講義と問題演習
	25	国際政治と日本	講義と問題演習
	26	国際政治と日本	講義と問題演習
	27	政治総合演習1	問題演習
	28	政治総合演習2	問題演習
	29	政治総合演習3	問題演習
30	定期試験対策	定期試験対策演習	

2023年度

吉田学園公務員法科専門学校

公務員学科 警察消防専攻

授業科目 (科目ID)	政治・経済		担当教員  (実務経験)	小林 功典、高崎 浩彰  有 無 ✓	
対象年次・学期	1年・後期		必修・選択区分	必修	単位数 4単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	30	時間数 60時間
授業目的	政治・経済は単純な暗記よりも、理解を伴った記憶の方が、知識が定着します。政治・経済の授業では、単に語句を暗記するのではなく、「仕組み」や「問題点」を理解することを目的とします。				
到達目標	政治・経済は、社会科学系では、最も確実な得点源となります。授業目的に基づき、応用力を身につけ、得意科目とすることを目標とします。				
テキスト・ 参考図書等	"絶対"合格シリーズ 社会科学 テキスト編 "絶対"合格シリーズ 社会科学 問題集編 "絶対"合格シリーズ 社会科学 ドリル編 担当教員作成によるレジュメ及び過去問題集				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	60%	評価試験、小テスト、その他(授業態度等)を合わせて、総合的に評価します。		
	レポート	%			
	小テスト	20%			
	提出物	%			
	その他	20%			
履修上の 留意事項	自学自習時は、復習を中心とした勉強を実施して下さい。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	経済のしくみ 市場と価格	講義と演習		
	2	経済のしくみ 市場と価格	講義と演習		
	3	企業のしくみ	講義と演習		
	4	企業のしくみ	講義と演習		
	5	景気と物価	講義と演習		
	6	景気と物価	講義と演習		
	7	金融と日本銀行の金融政策	講義と演習		
	8	金融と日本銀行の金融政策	講義と演習		
	9	財政政策	講義と演習		
	10	財政政策	講義と演習		
	11	為替レートと貿易	講義と演習		
	12	為替レートと貿易	講義と演習		
	13	国際経済との関わり	講義と演習		
	14	国際経済との関わり	講義と演習		
15	国民所得と経済成長(様々な経済指標)	講義と演習			

履修主題・履修内容	16	国民所得と経済成長(様々な経済指標)	講義と問題演習
	17	現代日本経済の構造と課題	講義と問題演習
	18	現代日本経済の構造と課題	講義と問題演習
	19	経済学史	講義と問題演習
	20	経済学史	講義と問題演習
	21	社会保障・情報化	講義と問題演習
	22	社会保障・情報化	講義と問題演習
	23	労働事情	講義と問題演習
	24	労働事情	講義と問題演習
	25	環境問題・農業問題	講義と演習
	26	環境問題・農業問題	講義と問題演習
	27	経済総合演習1	問題演習
	28	経済総合演習2	問題演習
	29	経済総合演習3	問題演習
30	定期試験対策	問題演習	